

# 虚子、松山から雄飛する

令和2年新春特別展



高浜虚子写真 明治27年

令和元年12月21日(土)～令和2年1月31日(金)

休館日：令和元年12月24日、令和2年1月7日、14日、21日、28日(いずれも火曜日)

開館時間：午前9時～午後5時(展示室入場は午後4時30分まで)

## 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料：個人200円 団体160円 65歳以上100円 小中高校生 無料  
特典／常設展とセットで特別展の観覧券を購入する場合、特別展の観覧料は2割引、  
子規博友の会会員が特別展の観覧券を購入する場合、特別展の観覧料は2割引

### 学芸員によるギャラリートーク・関連講座

#### ●ギャラリートーク

日時：令和元年12月28日(土)、  
令和2年1月11日(土)  
ともに午前10時30分より50分程度  
会場：3階特別展示室  
※聴講には特別展の観覧券が必要

#### ●関連講座

演題：  
子規の虚子への指導－子規と虚子の往復書簡から－  
日時：令和2年1月18日(土)  
午前10時30分から11時30分  
会場：1階視聴覚室 ※聴講無料

松山市立子規記念博物館

Tel. 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園 1-30  
施設運営・管理／株式会社レスパスコポレーション <http://sikhaku.iesp.co.jp/>

令和2年新春特別展

# 虚子、松山から雄飛する

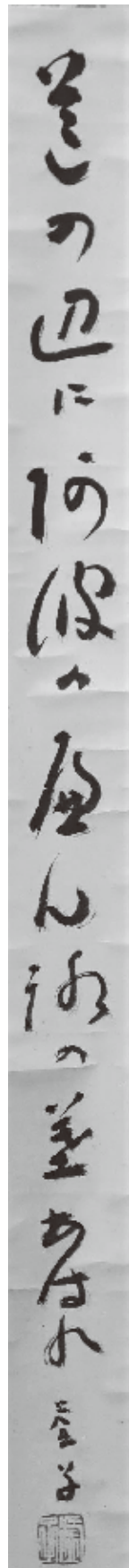
近代俳句の発展に大きな功績をのこした高浜虚子（一八七四～一九五九）は、松山が生んだ偉人の一人です。令和元年は、虚子の没後六十年の節目の年です。

虚子は、生涯の友・河東碧梧桐と伊予尋常中学校（松山中学校）で出会い、その交流などをおして文学の道を志すようになります。この時、虚子が師事した人物が憧れの存在だった同郷の先輩・正岡子規でした。十七才で子規との交流を始めた虚子は、東京の子規と頻繁に文通し、また、子規が松山に帰省した時には句会などをともにしました。子規に大いに感化され、文学熱を高めていった虚子は、二十才の時に上京し、以後、本格的に文学活動をスタートさせます。

子規門の俳人として活躍した虚子は、子規から後継者と目され、雑誌「ホトトギス」の運営・編集にもあたり、子規とともに文学活動に邁進します。子規の死後、しばらく俳壇から遠ざかった時期もありましたが、三十九才の時に俳壇へ復帰し、以後、「ホトトギス」を拠点として句作に励み、子規と同じく若い才能を多く見出し、後進の育成に力を注ぎました。

長く文学者として活躍した虚子ですが、その心にはいつもふるさと松山への想いがありました。虚子は折に触れ松山に帰省し、また、松山を題材とした作品を数多くのこしています。

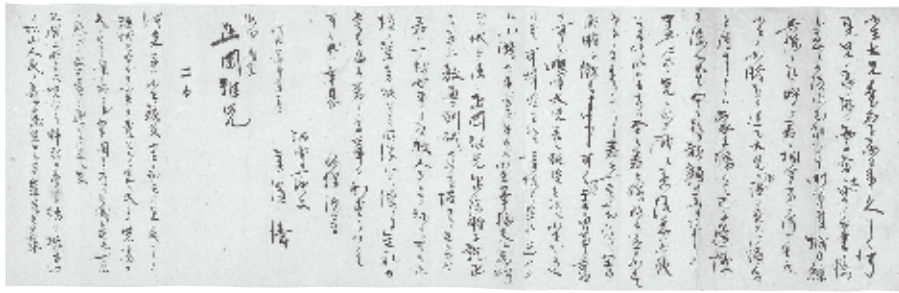
今回の特別展では、子規に導かれ松山で文学の道を歩み始めた虚子の初期文学作品や子規・碧梧桐との交流を物語る資料、また、虚子がふるさと松山を題材とした俳句・書作品などの関連資料を展示し、ここ松山から雄飛した虚子の文学活動の軌跡に迫ります。



高浜虚子句  
「道の辺に阿波のへんろの墓あはれ」



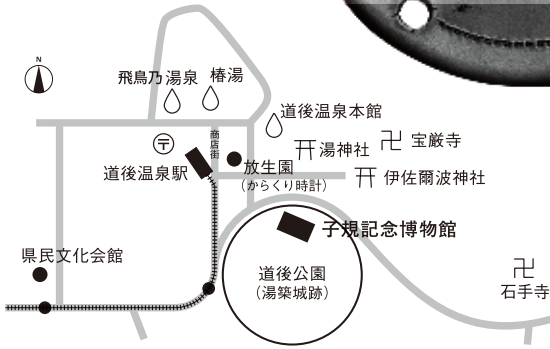
下村為山画・高浜虚子句  
「子規逝くや十七日の月明に」



高浜虚子の子規あて書簡（明治24年5月23日）



高浜虚子句入り鼓  
「鼓あぶる夏の火桶やほととぎす」



## 松山市立子規記念博物館

TEL 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園1-30  
施設運営・管理/株式会社レスバスコーポレーション <http://sikhaku.lesp.co.jp/>

道後温泉駅より徒歩約5分/道後公園駅より徒歩約5分  
※公共の交通機関をなるべくご利用ください